



## エヌ・イー・ピー小型LEDライト L-5010

AVテクニカルライター 稲田 出

カメラライトとしてのLED光源は消費電力が少なく、発熱もほとんどないことから近年各社からさまざまなタイプの製品が発売されている。また、LED単体では光量が不足しがちだったため、それを補うためと照射角を広くとるために多数のLEDを搭載した製品が多かったが、良質なパワーLEDが開発され、色温度も当初の白色だけでなく電球色のもも登場している。今回取り上げるエヌ・イー・ピーのビデオライトもこうした技術的な背景から開発された商品である。

### 電源を選ばないL-5010

電源は灯体の背中部分におんぶするような格好で小型ビデオカメラで使われている7.2V系のバッテリーを使用するようになっている。ソニー製のLシリーズ(NP-F970)やパナソニック製のバッテリー(VBD-55など)を使用することができる。ただし、ソニーかパナソニックかは購入時指定となっており、後で変更することはできない。本体正面には外部電源用のコネクタが装備されており、オプションのケーブルにより、



小型カメラのアクセサリースューに装着できるほか、ねじ込み式のアクセサリースューに装着することができる。なお、オプションでハンドグリップが用意されており、ハンドライトとしても使用可能

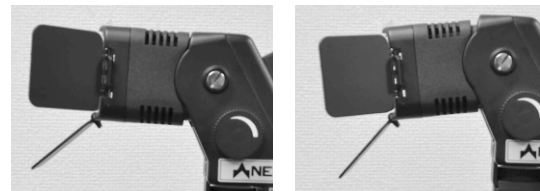
パワータップによる電源供給やBPまたはVマウントタイプの12V系バッテリーにも対応可能となっている。ライト用に専用バッテリーを用意しなくても現在使用しているカメラバッテリーを流用できるのは、非常にありがたい。電源は7~17Vに対応するように設計されており、いずれの電源を選択しても光量に差はないので、内部に電源回路が組み込まれているようである。また、1~100%までディマー調節ができるようになっており、撮影時の環境光との光量バランスが容易に行える。もちろん、タングステンのような調光による色温度の変化はない。照度は、高輝度のLEDを5つ搭載することで500 lxの照度を実現している。なお、今回試用したL-5010の色温度は3800Kだが、6000KのL-5000というモデルもラインアップされている。

### HDR-FX1000に装着して試用

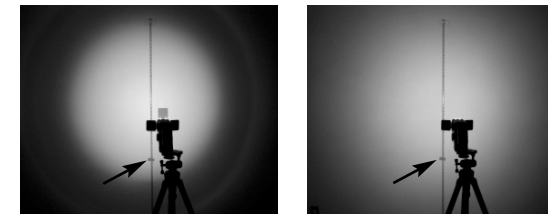
カメラへの装着はアクセサリースューを利用して行うが、今回使用したカメラがソニーのHDR-FX1000だったため、かなり前方へライトが付く格好となってしまった。ライトの質量は実測でバッテリーを含めると700g以下だが、バランス的にはかなり前側になってしまう。肩乗せ式のENGカメラであれば、カメラ自身の質量もあり、アクセサリースューの位置もレンズの付け根あたりなので、ちょうど良いと思われる。また、比較的新しいカメラであれば、バッテリー装着部分に



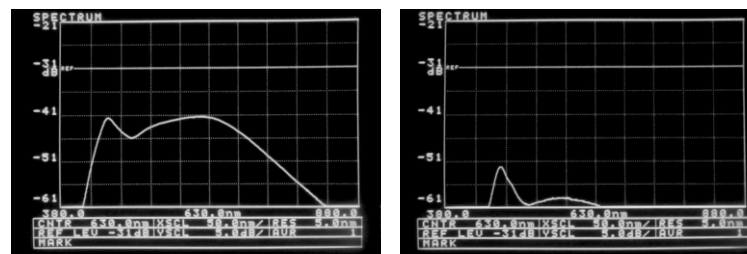
電源は本体の背中に小型カメラ用のバッテリーを装着。ソニー用とパナソニック用が用意されている。また、本体の前面下部にコネクタが装備されており、オプションのケーブルを接続することで、パワータップやBP、Vマウントタイプのバッテリーを使用することができる



ライト部分は上下に2~3°ほど角度を調節することができるようになっている。長時間点灯すると金属でできたライト部分が暖かくなる



LEDライトは照射角が狭いものが多いが、このライトはかなり広い範囲をカバーしている。光量もかなりあり、直視するとまぶしいほどだ。写真右は、ディフューザなしで約1mのところから照射したもので、矢印のところが上から約1m。右はディフューザあり



L-5010(左)と白色LEDを使った懐中電灯の分光曲線。380~880nmまでを光スペクトラムアナライザーでスキャンしたグラフで、1目盛りは50nmとなっている。人の目が感知できるのは380~760nmまでといわれているので、L-5010はその範囲を充分にカバーしている。一般の白色LEDは右のように(光量が少ないため)山の高さは低くなっているが700nm前後の赤色部分が非常に少なく、見た目にも青白い光になっている



HDR-FX1000の場合アクセサリースューは、LCD部分にあり、LCDを開閉するときにはライトを外す必要がある

パワータップが装備されており、電源もそこから供給することが可能なので、別途ライト用にバッテリーを装着しなくてもよい。ちなみに、バッテリーなしのライト単体の質量は約400gほどである。なお、カメラの機種によっては、録画スタート/ストップに連動してライトもON/OFFすることもできる。

このクラスのカメラの中には、アクセサリースューにネジ穴が装備されているものもあるが、ライトのシュー部分のアタッチメントをはずすことにより、ネジ込み装着が可能になっている。このネジを利用して別売のグリップを装着すると手持ちのライトとしても利用できる。照度は500 lxとなっているが、約1mのところを実測したところ、600 lxほどの明るさであった。照射角はLEDライトの場合狭いことが多いのだが、L-5010はタングステンタイプのこのクラスの照明器具とほとんど変わらない照射角となっており、照射範囲内の輝度ムラもほとんどなかった。

LEDが組み込まれている灯体部分は金属製でできており、パワーLEDからの放熱器の役割を兼ねているようで、長時間の点灯では熱をもつが、タングステンライトほどではなく、少し暖くなる程度である。また、この部分は上下にティルトできるようになっているが、その角度はわずかなので、レンズの画角と被写体までの距離を補正する程度と考えるとよいだろう。

バンドアは樹脂製で、たたくとコンパクトになる点は良いのだが、たたく順序があるので注意したい。なお、バンドアはオプション扱いとなっており、今回借用したライトには、バンドアと拡散フィルターの組み合わせであった。色温度が6000KのL-5000には、アンバー系のフィルターも装備され、室内などタングステン照明下でも違和感のない補助光源となる。

白色LEDを採用したライトは、LEDの構造上青と黄色成分に山があり、赤の成分はほとんどないものが多かったが、L-5010には演色性の良いLEDが採用されているようで、光スペクトルアナライザーで測った分光特性はかなり優秀なものであった。

電源：DC 7~12V約12W(ソニーLシリーズまたはパナソニックの7.2V系小型ビデオカメラ用バッテリー、オプションによりパワータップ、BP-90タイプ、Vマウントタイプのバッテリーにも対応可能) 色温度：3800K(L-5010) 6000K(L-5000) 光量：500 lx 外形寸法：幅138×高さ108×奥行60mm 質量：約500g(本体のみ、バッテリー含まず) 価格(税込)：¥5万2500(専用バッグ付き、バッテリー含まず)、¥6300(バンドア)、¥2100(手持ちグリップ)、¥7350(ミニ三脚型グリップ) 問い合わせ先：エヌ・イー・ピー 03(3263)6741 URL: <http://www.nepinc.co.jp/>